

午後 試験

問 1

出題趣旨

システム要件定義は、限られた期間内で品質を確保し、かつ、効率よく行うことが求められるので、ユーザとの打合せを実施するに当たっては、事前の準備が大切である。

アプリケーションエンジニアは、準備に当たって、メンバの経験やスキル、対象業務の特徴を踏まえ、工夫をしなければならない。また、これらの事前の準備結果を基に、ユーザと開発者の両者でそれぞれが行うべきことや協力して行うべきことを確認・合意して進めることが重要である。

本問では、システム要件定義の品質を確保し、かつ、効率よく行うために準備した内容を問うことによって、アプリケーションエンジニアとしてのシステム要件定義に関する能力・経験などを評価する。

問 2

出題趣旨

生産性や品質を向上させることを目的に、アプリケーションの開発にフレームワークを利用するケースが増えている。ただし、フレームワークの利用においては、利用方法の習得時間の短縮、機能や性能面での制約への対応、機能の利用方法に関する開発者間のばらつきの統制、業務機能の効率の良い設計・開発などの解決すべき課題がある。

本問では、フレームワークの利用に当たって、どのような課題を認識し、その課題を、対象システムの規模、システムの特長、開発要員のスキルなどを考慮して、どのような対策をどのように効果的に実施して解決したかを具体的に論述することを求めている。論述を通じて、アプリケーションエンジニアとしてのシステム設計におけるツールや技法の適応能力、課題設定能力や課題解決能力を評価する。

問 3

出題趣旨

要件定義が終了した段階の開発工数の見積りでは、対象業務に関する開発メンバの経験や理解度、採用する開発手法や開発ツールに対する開発メンバの生産性、システムの規模に応じたテスト期間や要員計画などの見積りに影響を与える要素についても、考慮することが必要である。

アプリケーションエンジニアは、見積りに影響を与える要素について、対象業務やシステムの特徴を踏まえて、工夫を行うことによって、より正確に開発工数を見積もることが大切である。

本問では、見積りに影響を与える要素について、対象業務やシステムの特徴を踏まえて、どのような工夫を行い、どのように開発工数を見積もったかを具体的に論述することを求めている。論述を通じて、アプリケーションエンジニアに必要な業務分析能力、システム分析能力や開発工数見積りの能力を評価する。